

「ポスト2020」に向けた 地方創生/地域経済循環の取組みについて

日本政府は2014年に「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、全国各地域が将来にわたり活力を持ち持続していくためのサポートを開始しました。

各種の支援制度を活用した創生活動が全国各地で進む中、総合戦略や地域再生計画などで設定した目標に対する「結果」が厳しく求められる時期を迎えています。

「ポスト2020」において勝ち残る地域となるために重要なテーマや打ち手について、実際に経験した事例を基にご紹介いたします。

1. 地方創生の狙いと本質

地方創生の本質は、「地域の稼ぐ力の獲得を支援することで、
国家として選択と集中を行なうべき地域と、そうでない地域の選別を行なう」ことです

まち・ひと・しごと創生総合戦略		
現状認識	政策の基本目標	3本の矢
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少の加速 東京への一極集中 地域経済の縮小 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地方の雇用創出 ② 地方への人の流れの創出 ③ 結婚・出産・子育ての支援 ④ 安心な暮らしと地域間連携 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 情報支援 (RESAS) 2. 人材支援 3. 財政支援 (交付金)
地方の「平均所得の向上」による「しごと」と「ひと」の好循環作り		

- 現状を脱却して、今後将来にわたり活力ある地域社会を全国に生み出すことが狙い
- 人の流れを生み出すために、まず「稼ぐ」力をつけることを最優先
- 結果として勝者と敗者に分かれることで、国として選択と集中を行なう

資料：内閣府「まち・ひと・しごと創生本部」発表資料等を基に、インテンス・アンド・アソシエーツにて作成

2. 「ポスト2020」に向けた重要テーマ

現在の成長トレンドの潮目が変わる
2020年までに、各地域は自ら地方創生
に対する解を見つけなくてはなりません

2020年までの「地域の宿題」

「自走」	<ul style="list-style-type: none"> 国家として地方創生に投資できる資金が続く間に、地域自らが補助金や公共投資に頼らない稼ぎ方を見つけなくてはならない。
インバウンド・アウトバウンド	<ul style="list-style-type: none"> 減少する国内消費のシェアを奪い合うのは限界がある。地域間での勝敗が決定する前に、成長市場であるインバウンド・アウトバウンド消費を押さえなくてはならない。
総合戦略の達成	<ul style="list-style-type: none"> 総合戦略とは、地域が国や住民に約束した「中期経営計画」である。交付金や自主財源の投資を実施した以上は、計画達成という「結果」で答えなくてはならない。

3. いま重視すべきこと

2017年版：地方創生における「よくある課題」

• 交付金は獲得できたが、予算を消化する一方で、自走への切替が進まない

• 大金を投じて知名度向上には成功したが、稼ぐ力の向上にはつながらない

• 域内の利害関係を取りまとめることに精一杯で、気付けば周辺地域と似たような活動をしている

補助金事業からの脱却

安定して稼げる資源づくり

広域/他地域での連携

地方創生事業は、従来の公共事業に見られる予算消化型の活動から、
「組織力をつけ安定的に稼ぐ」というステージに移行しています

4. 地方創生・経済循環のための打ち手

オープンイノベーションを通じた
地域の「稼ぐ力」育成とPDCAサイクル運用を、
地域と一体になりサポートします

全体：経済循環主体の組成/運用

- これから注目を集める地域商社やDMCなどの「地域経済けん引事業」の企画と立上げ、オペレーションをサポートします。

評価～改善：モニタリングと改善立案

- 施策の効果を定点観測するためのモニタリングサービスを提供します。また、実施効果を評価し、タイムリーに改善立案を行なう評議会サービスを提供します。



計画：客観的視点での診断

- 地域の正しいポテンシャルを把握するため、総合戦略や地域再生計画などの戦略、地域資源（観光資源・特産品・事業者など）を客観的視点で診断します。

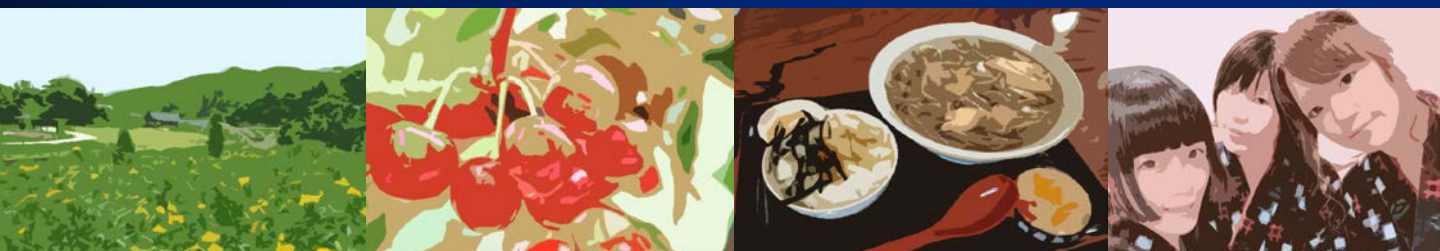
計画～実行：実現可能な施策づくり

- 正しいポテンシャルを知った上で、地域としてコミットする目標やKPIを達成するために、優先度の高い施策を立案します。

実行：土台・仕組みの形成と運用

- 地域が「稼ぐ力」を付けるための、情報発信や人材育成の仕組み、商品開発や販路の開拓、地域を売り込むための人的支援などを行ないます。

5. ケーススタディー：山形県河北町の場合



地域の概要

- 人口約1.9万人
- 山形県のほぼ中央部に位置し、山形空港/新幹線駅のある東根市、将棋の駒や温泉地として有名な天童市に隣接
- かつては最上川舟運の紅花集散・交易拠点として栄え、当時の商人が京都から持ち帰った時代雑が町内各地に残っている。そのため現在では「雑と紅花の里」と呼ばれている
- 全国生産額の約4割を占めるスリッパ産業、B級グルメとして全国的に知られる「冷たい肉そば」で知られる。また、さくらんぼの一大産地としても認知される

取り組みの内容

- 紅花を中心とした地域経済の活性化に取り組み河北町、河北町観光協会と、デジタルイノベーションを通じた地方創生への貢献を目指す株式会社日立システムズと共同で、地域産業振興や観光による地域活性化を共同で推進するためのプロジェクトを2017年2月より開始。
- 初期活動を「活性化のための土台作り」と位置付け、地域資源の診断、デジタル活用による情報発信の仕組みづくり、インバウンド/アウトバウンドを促進する国際派地域ユニット「べに花おとめ」の組成を実施。
- 「べに花おとめ」について、2017年5月より本格的な活動を開始。

実施効果

「べに花おとめ」関連SNSフォロワー数
(活動開始から約2ヶ月時点)

800名以上

べに花まつり 2日間来場者数
(2017年7月8日・9日開催)

1,071名(前年比4割増)

広域連携効果/メディア露出

- やまがた女将の会から協力打診
- 山形空港での河北町PRの様子がNHKニュースにて放映 等

6. 初期活動プログラムのご案内

地域がいま抱える課題に対応するための、柔軟かつ多彩な活動プログラムを用意しています

簡易アセスメント

- 短期間の訪問で、専門家による地域資源の診断を行い、「稼ぐ力」等のポテンシャルを評価

多言語SNS運用

- 中国語、韓国語、英語など外国語のSNSのアカウントを開設し、投稿翻訳サービスを提供

説明会・ワークショップ

- 地域の観光事業者、活性化の担い手を集めた、インバウンドセミナーやワークショップ等の開催

その他（要ご相談）

- 施策検討における助言、専門家人材の紹介、ビジネスマッチングなど多様なサポートを提供可能

お問合せ先

インテンス・アンド・アソシエーツ株式会社

TEL: 03-5416-5425

MAIL: info@intense-kk.com

Intense
& associates